

「これからが大変だ」

全農期待、決意も新たに

新連合会「全農」は3月30日誕生した。午後1時から東京・大手町の農協ビルで開かれた設立総会はスケジュール通り淡々と進み、約四十分で終った。

金農は合併前からマイクロ波による農業関係者が五十人以上押しかけた。

テレビライムが照らす中で1時開会、三橋設立総会監査長が「農業農協をどうあるべき情勢はさわしいが、高能率、高所得農業の確立と新しい地域社会の建設を基本課題として、系統経営事業の総合大団結を…」とあくまで、盛んな拍手を浴びた。

来賓の宮崎全国農連中央会会長は顔を紅潮させ「めでたし満足だ。この合併に努力してきた者として生産を通して忘れない感激となり」とあくまで、「情勢がきびしだけで、全農も落ちついてもらひなんが力をあせてでもけない。多勢の職員が一体化し、農民の期待にこたえてほしい」と注文を付けた。

淡々と進んだ総会でただ一つのハナシは最後に一金農(京都)から「今後の金農運営に当たっては、その進行状況をくわしく貢献に知らせたい」と希望が出されたのだ。

総会後、パーティードの込んだ金農たちは「これからが大変だ、期待が大きい…」と決意を語る。



全農設立総会であいさつする三橋全農会長（東京・大手町の農協ビルで）